



春休み子ども青谿書院塾

3月25日(金)3月29日(火)の両日、宿南地区の小学生・中学生を対象に「子ども青谿書院塾」をふれあい倶楽部ホールにて開催しました。春休みに入ったばかりでそれぞれ宿題や課題を持参し、10時から11時20分迄勉強に集中、2日間で延べ36人の参加がありました。



春爛漫

今年も桜の咲く季節になりました。ここふれあい倶楽部の周りの木にも多くの花が咲いておりました。お花見をされた方もいらっしやるのではないのでしょうか。地区内の桜景色です。どこの桜かわかりますか。

(裏面に記載しています。)



電車が走っています! ↑



転落防止柵設置

三谷川にかかる2つの橋に転落防止用の柵が3月末に設置されました。宿南っ子を守る会の永年の要望でもあり通学時の安全がやっと確保されました。柵があっても身を乗り出したりしては大変危険ですので絶対にやってはいけません。



身近で見られる植物 ⑪

オオイヌノフグリ<ゴマノハグサ科>

白、ピンク、黄、紫と草花の花の色の種類は多いですが、青い色をした花は、それほど多くはありません。青（水）色の花の一つ、オオイヌノフグリは、春先に日当たりの良い道端、畑、庭先など、どこでもよく見られる珍しくもない雑草です。名前の意味は・・・、ここでは言えませんので自分で調べて下さい。

さて、他に青い色をした花は何だと思いませんか？何気なく見ている雑草ですが、よく観察してみてくださいね。



春の交通安全運動

4月6日（水）から15日（金）まで交通安全運動期間でしたが日ごろから歩行者も運転者も気持ちにゆとりを持ち交通安全にこころがけて行動しましょう。

飲酒運転は絶対しない、させない。車も自転車も歩行者も交通ルールを守りましょう。宿南つ子を守る会の懸案事項だった標識も設置されました。



お知らせ

- 4月24日（日） 全戸日役（除 青山・三谷）
- 4月25日（月） 議会報告会
- 4月28日（木） 宿南地区自治協議会総会



草庵先生紹介

日記 38



草庵は幼少のとき、夕方になると目がほとんど見えなくなる病を患った。

夕方、家路に向かう家族。草庵は父に背負われている。

宮崎 和夫さん作

池田草庵は自分の誕生日を大事に迎えていた。「今日は私の誕生日だ。片山に行き霊位を拝する。また墓にも行き拝する」（弘化4〈1847〉年7月23日）

毎年、7月23日の日記には、決まって「今日は私の誕生日」と書く。片山は草庵の実家。草庵にとってこの日は、父母の霊前にこうべを垂れ、生み育ててくれた父母との思い出や父母の恩を思う日だった。「今日は不孝狐僧の誕生日なり。午後、塾生20人余り連れて父母の墓に参る。また、片山に行き、霊位を拝する。帰院して長く黙座する」（安政4〈1857〉年7月23日）自分のことを「不孝狐僧」と書いている。父母の前で「孝行もできなかったにせ者の僧であった自分」と、この時は厳しく自分を責めて迎えた誕生日だ。草庵の両親は、草庵の幼少のころ相次いで亡くなっている。しかし、父母との思い出はたくさんあった。草庵が27歳と28歳の7月23日には、「追想紀言」という題名で父母との思い出の文をいくつか書いている。その中から二つだけ紹介する。

「幼い時、私はいつでも母にくっついていて。母は、夜はしばらく私と一緒に寝て、私が寝るのを待つて機織りなど一生懸命やっていた。私が目覚めて泣きやまなかった時があった。母はそばに来て言った。おまえは片時も私から離れようとしませんが、私が死んでしまったらどんなにさがしても見つからないのですよ。そんな時、あなたはどうするのですか」

「幼い時、いわゆる鳥目にかかり、夕方になるとぼんやりとして何も見ることができなかった。父はあちこちに薬を求めに出かけた。また、山中の祠に、数十日も毎夜祈りに連れて行ってくれた。父は私を背負い真っ暗な山道を歩き、私は怖かったが、父は山路を踏み分けて登ってくれた。苦勞を少しもいとわなかった父の恩は実に大きい」そして草庵は塾生たちに語っている。「毎日でも、生み育ててくださった父母の恩を思い返さなければならない」（「偉業餘稿」264条）と。

池田草庵先生に学ぶ会